（独立行政法人教職員支援機構委嘱事業）

# 教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業報告書

| | |
|---|---|
| プログラム名 | 青森県の指導主事の研修ニーズに応える実践的研修プログラム |
| プログラムの特徴 | 県内の新任～経験２、３年程度の指導主事を対象として想定した、実践的な知識・技能の向上を図る研修プログラムである。プログラムは、本学教職大学院及び他県教職大学院の研究者教員を講師とした、新学習指導要領に対応した「子どもの学びの過程に着目した校内研修等への助言の在り方」や「校内研修をより活性化させるための学校へのコンサルテーションの技術」についての講義・ワークショップ、青森県内の指導主事経験者を講師とした「指導主事としての力量向上プロセス」「学校現場とともに歩む指導主事の在り方」についての講義で構成されている。<br>青森県では、新任指導主事全員を対象とした４月上旬の１日研修、義務教育の指導主事に年２回の情報交換の場はあるが、それ以外に指導主事対象の研修は実施されていない。本事業の取組を通して、青森県の指導主事の研修ニーズを掘り起こし、教職大学院が所有する資源を生かしながら、現場を指導する指導主事の力量向上に向けた研修の在り方を検討する。 |

令和　３年　３月

機関名　弘前大学　　連携先　青森県教育委員会

# プログラムの全体概要

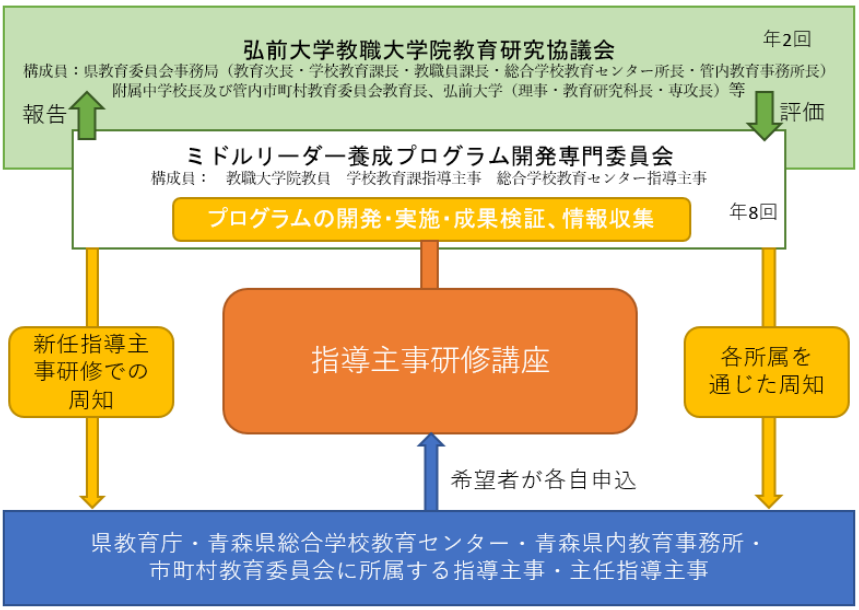
## （１）研修対象者

県教育庁・県総合学校教育センター・県内教育事務所・市町村教育委員会等に所属する指導主事・主任指導主事のうち、希望者を対象とする研修であり、主として、新任から経験２、３年目までの指導主事を主な対象として想定した内容のプログラムを開発した。

## （２）プログラム開発のための組織体制

実施体制は、次の図１のとおりである。

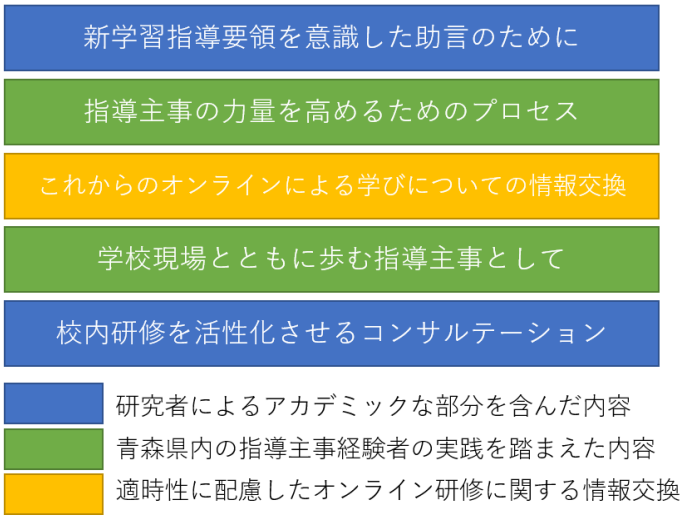
図１　事業実施イメージ図




## （３）プログラムの構成

本教職大学院及び他教職大学院の研究者教員によるアカデミックな内容を含む講義・演習の間に、青森県内における指導主事経験が豊富な講師２名による講義を入れることにより、理論と実践を往還した研修となるようにした。また、昼には、新型コロナウイルス下で強く求められるオンライン研修について、県内の指導主事が市町村や所属を超えて情報交換をする場を設けた。

図２　プログラムの構成要素



## １　開発の目的・方法・組織

### ①　開発の目的

指導主事は、自治体の教育行政を担い、学校現場を支え指導する、青森県教育界における重要なミドルリーダーであるが、実際にはその職に任じられて初めて指導主事の業務に向き合うことになる。どの所属先の指導主事であるかにもよるが、夏以降は、指導主事として各校における校内研修等において助言し、校内研修を活性化させる役割を担うことが多い。そこで、新任から２、３年目までの指導主事を主な対象として、研究者によって提供される最新の教師教育分野の知見と、青森県における豊富な指導主事経験を持つ先達による実践的な内容で構成された、指導主事研修会プログラムを開発することとした。

### ②　開発の方法

県教育委員会指導主事（学校教育課、総合学校教育センター所属）と本教職大学院教員がメンバーとなる「ミドルリーダー養成プログラム開発専門委員会」において協議しながら、プログラム開発を行う。令和元年度からすでに検討を始めており、他県で取り組まれている指導主事研修プログラムについて情報収集してきた。それらを踏まえて、指導主事が学校現場で助言する際に役立つ研修を、青森県においても実施したいという意見が出され、本教職大学院主催・県教育委員会共催による指導主事研修会を開催することとなった。プログラムの開発にあたっては、内容、講師選定、適切な実施時期等についても、県教育委員会指導主事の意見を踏まえて開発を進めた。

なお、当初は、7 月実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症防止のため、11 月に延期した。また、形態についても、会場が密な状況になることを避け参加しやすい状況を作ることを意図して、県内 3 か所にオンラインで接続した会場を設け、対面＋オンラインのかたちで開催にするなど、開発過程で様々な変更を行いながら進めることとなった。

また、当初予定していた 7 月には、新任指導主事のニーズがあることが予想されたため、小規模なオンライン懇談会を実施した。

### ③　開発組織

本教職大学院は、青森県教育委員会や市町村教育委員会をはじめとする関係機関との連携組織として、弘前大学教職大学院教育研究協議会を設置している。本プログラムの開発を担うのは、その下部組織として位置付けられている「ミドルリーダー養成プログラム開発専門委員会」である。この専門委員会は、前述のとおり、県教育委員会指導主事（学校教育課、総合学校教育センター所属）と本教職大学院教員で構成され、これまでも中堅教諭等資質向上研修をはじめとするさまざまな現職教員のための研修プログラム開発を担うとともに、中核市教育委員会関係者も加えた「育成指標に対応したミドルリーダー世代の研修を考える協議会」を開催するなど、青森県内における現職教員研修について、考える重要な場を設定している。

## ２　開発の実際とその成果

### ①　指導主事研修会

**〇研修の背景やねらい**

教育委員会指導主事は、教育界において重要な役割を果たすミドルリーダーであるが、着任にあたってその業務について長時間の研修等を受けることはなく、学校現場とは全く異なる職務を担うことが要請される。青森県では、新任指導主事全員を対象として４月上旬に１日研修があり、その後、義務教育の指導主事に年２回の情報交換の場があるものの、それ以外には、指導主事対象の研修は実施されていない。本事業の取組を通して青森県の指導主事の研修ニーズを掘り起こし、教職大学院が所有する資源を活かしながら指導主事の力量向上を図るとともに、所属を超えた指導主事間のネットワークを形成することによって、共通の育成指標を持つ青森県全体の教員の資質向上を支える環境を醸成することをねらいとする。

**〇対象、人数、期間、会場、日程講師**

**・対象**

青森県教育庁・青森県総合学校教育センター・青森県内教育事務所・市町村教育委員会等に所属する指導主事・主任指導主事のうち、希望者

**・人数**

弘前会場１０名、青森会場６名、八戸会場１５名の計３１名で実施。

**・会場**

［弘前会場］弘前大学教育学部　３階 305 教室（〒036-8560 弘前市文京町１番地）
［青森会場］青森県観光物産館アスパム　９階 津軽（〒030-0803 青森市安方 1-1-40）
［八戸会場］ユートリー　５階 視聴覚室（〒039-1102 八戸市一番町 1-9-22）
３会場及び講師の一人である大阪教育大学の木原俊行教授の研究室をオンラインで結んだ対面＋オンライン形式の開催とした。

**・日程及び講師**

11 月 28 日（土）
9：20～9：30　主催者挨拶
9：30～10：10「新学習指導要領を踏まえ子どもの学びに着目した助言のために」
〈 講義 〉　弘前大学教職大学院教授 中野　博之
10：20～11：20「指導主事としての力量を高めるプロセス」
〈 講義 〉　十和田市立南小学校教頭 上原子孝始 氏
11：20～12：00　これからのオンラインによる学びについての情報交換
〈 話題提供・協議 〉
12：50～13：50「学校現場とともに歩む指導主事として」
〈 講義 〉　青森県立野辺地高等学校校長 古川　浩樹 氏
14：00～15：20「校内研修を活性化させるコンサルテーション」
〈 講義・ワークショップ 〉　大阪教育大学教授 木原　俊行 氏

**〇各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）**

アカデミックな内容を押さえた教職大学院研究者教員による、学校現場への助言やコンサルテーションについての講義・ワークショップを最初と最後に配置し、その間に、青森県内で豊かな指導主事経験を持つ講師２名の講義、新型コロナウイルス感染症防止のためにオンライン研修会が求められている現状を踏まえた情報交換を配置した。

指導主事経験者による講義では、前半は、「指導主事としての力量をどう高めていくのか、それが将来の管理職キャリアなどにどう活きるか」といった自らのキャリアを見つめる内容、後半は、「学校現場と教育行政担当者との関係の中で自らの仕事をどう位置付けていくか」という現場との関係の視点から指導主事の仕事の意義を問う内容とした。

オンライン研修に関する情報交換は、自治体による取組に大きな格差があることが予想され、今後の指導主事の仕事に大きな影響を与えると考えられたことから、急遽組み込むこととした。

**〇各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方**

| 研修項目 | 時間数 | 目的 | 内容、形態、使用教材、進め方等 |
|---|---|---|---|
| 新学習指導要領を踏まえ子どもの学びに着目した助言 | 40 分 | 新任指導主事が学校の校内研修等で助言する | **・内容**<br>新学習指導要領を踏まえ、子どもの学びの様子を見取ることを中心にした、指導主事の助言の在り方を講義する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| のために | | にあたって意識すべき内容を理解する | **・実施形態**<br>講義。講師は、弘前大学会場で講義。オンラインで青森会場、八戸会場に中継。スライド映写及び配布。<br>**・使用教材**<br>講師作成のスライド<br>**・進め方の留意事項**<br>今回は、オンライン研修の情報交換を入れたため時間が短かったが、本来は演習も含む形で実施する方がよい。 |
| 指導主事としての力量を高めるプロセス | 1 時間 | 指導主事のキャリア形成について、実際の事例をもとに理解する | **・内容**<br>指導主事としてどのように力量を高めたか、また、指導主事経験が管理職などその後のキャリアにどう活きるかを、経験を踏まえて講義する。<br>**・実施形態**<br>講義。講師は、八戸会場で講義。オンラインで青森会場、弘前会場に中継。スライド映写及び指導主事の業務に関わる資料の配布。<br>**・使用教材**<br>講師作成のスライド及び資料<br>**・進め方の留意事項**<br>特になし。 |
| これからのオンラインによる学びについての情報交換 | 40 分 | 青森県内のオンライン研修の現状と課題について、理解する | **・内容**<br>急激に進みつつあるオンラインによる研修実施について、それぞれの所属ではどう取り組んでいるか、情報交換し、経験や課題を共有する。<br>**・実施形態**<br>フリートーク。３会場を結んで、関係者に自由に発言を求めた。すでに教職大学院と連携して臨時講師研修をオンラインで実施した経験を持つ青森市教育委員会指導主事に口火を切ってもらい、情報提供をしてもらった。<br>**・使用教材**<br>講師作成のスライド及び資料。<br>**・進め方の留意事項**<br>フリートークとはいっても、各教育委員会の取組の実態についてある程度事前に情報収集し、経験のある指導主事などにあらかじめ発言をお願いしておくなどの配慮が必要である。また、司会から、参加者の所属先でのオンライン使用について、簡単に挙手を求めるなどして、その場で状況を共有するなどの工夫も有効である。 |
| 学校現場とともに歩む指導主事として | 1 時間 | 教育行政と学校をつなぐ指導主事の仕事の意 | **・内容**<br>自らの指導主事経験を踏まえ、教育行政が直接・間接にどのように学校現場を支えているのか、関わる際に意識すべきことについて、講義する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 義を理解する | **・実施形態**<br>講義。講師は、青森会場で講義。オンラインで八戸会場、弘前会場に中継。スライド映写及び配布。<br>**・使用教材**<br>講師作成のスライド。<br>**・進め方の留意事項**<br>特になし。 |
| 校内研修を活性化させるコンサルテーション | 1 時間 20 分 | 校内研修を活性化させるためのコンサルテーションについて、理論と実践の両面から理解する | **・内容**<br>校内研修を活性化させるために、指導主事としてどのようにコンサルテーションしていくべきか、学術的な背景について講義を受け、ワークショップにより実践的に学ぶ。<br>**・実施形態**<br>講義・ワークショップ。講師は、大阪教育大学天王寺キャンパスから講義・ファシリテーション。オンラインで青森会場、八戸会場、弘前会場に中継。スライド映写及び配布。<br>**・使用教材**<br>講師作成のスライド。<br>**・進め方の留意事項**<br>後半の演習では、学校現場への関わりについてグループ協議を行うが、その際、各グループがクラウドファイルに入力することにより、時間のロスなくお互いの協議内容を共有できるようにして展開し、オンラインを活用した研修の工夫を経験させる。 |

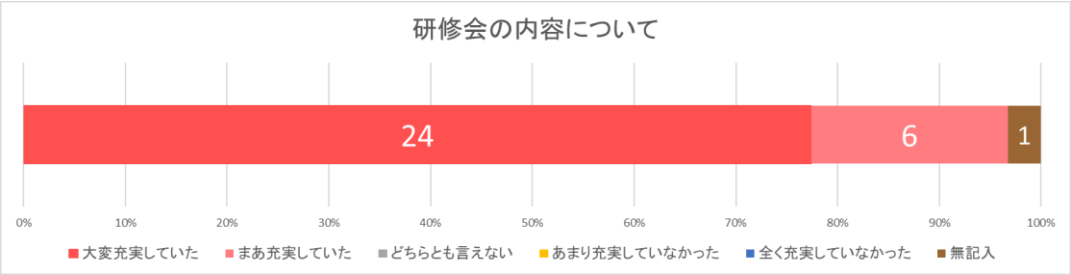
※チラシを添付

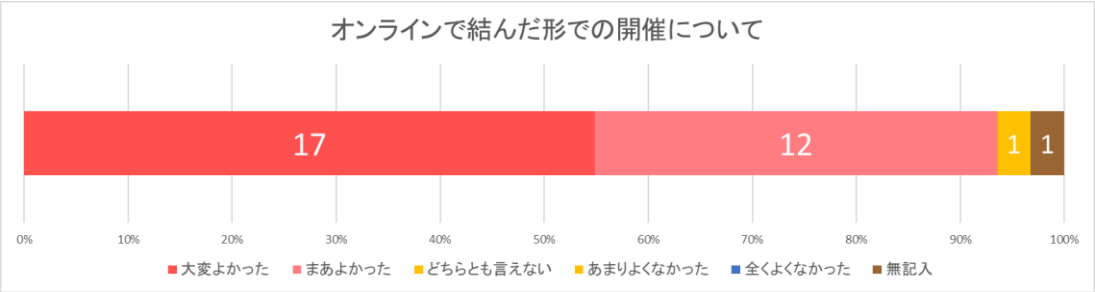
**〇実施上の留意事項**

この企画を実施するにあたって重要なのは、県教育委員会との共催などにより、指導主事が参加しやすい環境をつくること、新任指導主事のニーズの高い実施時期の選択、講師となる県内指導主事経験者の選定である。「ミドルリーダー養成プログラム開発専門委員会」における十分な意見交換の上に、県教育委員会共催で、適切な時期、講師によって実施できたことは、研修会の充実の上で欠かせない要素であった。

**〇研修の評価方法、評価結果**

研修修了時に、無記名でアンケート記入を依頼した。回収率は 100%である。






内容については、31 名中「大変充実していた」21 名、「まあ充実していた」6 名と、高い評価を得た。一方、オンラインで結んだ形の開催については、「大変良かった」17 名、「まあよかった」12 名と、内容面に比べ評価が低かった。自由記述において、音が聞こえにくかった点などが指摘されており、音響機器の対応が十分でなかったことが大きな要因と考えられる。今後改善していく必要がある。弘前大学からは遠い八戸会場に 15 名の参加があったように、近くで研修を受けられることへの評価は高かった。参加者の様子の観察に基づいた主催者側の事後の省察では、もう少しアウトプットの時間があると、さらに参加者の満足度を上げることができたのではないかという結論に至った。来年度の企画では、講師の話を聞いた上でさらに参加者同士が協議する時間をもう少し多く確保したい。

以下は、アンケートの自由記述である。なお、各意見の後ろの（弘）は弘前会場、（青）は青森会場、（八）は八戸会場の参加者を指す。

○<u>全体を通して</u>

・このような研修会の開催が実現でき、とてもうれしく思う。初めての研修会だったが、それぞれの立場（県教委、事務所、市町村教委等）や業務内容が異なる参加者にも共通して理解できる、あるいは、それぞれの立場の大変さがわかるような内容（バラエティに富み）でよかったと思います。（弘）

・授業を見る視点については、指導主事だけでなく現場の視点として広く教員の先生方にも抑えてほしいところだと思っています。全体を通して手探りしながら努力してきたことが間違ってなかった安心感と指導主事としてしっかりとした矜持を胸にもっともっと学ばなければならないという責任感と危機感を強く感じました。（弘）

・是非、次回も参加させていただきたいと思います。万全の感染症対策、研修内容、非常にクオリティの高い研修会だったと思います。（弘）

・おそらく県内初の指導主事の資質・能力の向上をねらった研修会、とても価値ある有意義な機会でした。（弘）

・講義と講義の間が１０分しかないのに、質疑応答の時間をとるのは無理がある。（弘）

・「研修を止めない」という点ではとても有意義だと思います。これから上手にオン・オフ両方を使って効果的な研修をつくりたいと思います。４月に指導主事になり、環境の変化、仕事内容の変化、そして誰も「指導主事とはなんたるか」について教えてくれない状況でした。この研修会を通じて本当に「求めていたもの」に出会えた気がします。（青）

・多くの講師のお話を聞くことができました。参考になる部分が多く、参加してよかったと思います。（参加者のコメントの部分が聞きづらいことが多く、次回への課題かなと感じました。発言時はマスクを取るとよいのかもしれません。）（青）

・もちろん”つながる”ことを考えると、一堂に会するのがベストだとは思いますが、このような状況下で有意義な学びをさせていただました。（青）

・経験、特に失敗した話などは勉強になりました。（青）

・「指導主事」と言っても、業務内容や担当によって違うものだということを学ぶことができました。相手を知ることで、話の食い違いやすれ違いが少なくなるのはどの職種でも一緒だと感じました。貴重な機会をいただきました。（青）

・指導主事というものを様々なお立場にいる先生方のお話としてうかがうことができたことで、今の

自分の業務・役割を考え直すことができました。今後、指導主事としての自覚を強く持って子供たち、先生方の為に全力を尽くして参りたいと思います。(八)
・指導主事となり、現場の先生方に対する研修を行う機会は増えましたが、本当の意味での参加者目線での研修は久しく体験していませんでした。その意味で本研修会は、指導主事の立場でありながら、実にたくさんのことを学ぶことのできる有意義な研修会でした。「１日日程は長いかな」と思っていましたが、実際に研修に参加してみると、どの講義も内容が濃く、時間があっという間に感じられました。次年度も是非、参加したいと思いました。(八)
・初めてオンライン研修を受講したが、対面式と同等以上の効果が得られることが分かりました。内容的にも、自己研鑽につながりました。(八)
・指導主事が学べる場が得られたこと自体有りがたかったが、実際に一日過ごしてみて、素晴らしいコンテンツばかりでよかったです。(八)
・音声的に聞きづらいことは否めません。(でも) 来年度も是非参加させていただきたいです。(八)
・様々な視点からのお話を聞けてとても参考になりました。内容のとても厚みのある研修会でした。すべてにおいて参考になる研修会でした。(八)
・1 日日程にふさわしい充実した研修内容であった。すべての講義において、今後につながる学びをいただいた。
・どの講義も気づきや学びがあり、大変参考になりました。何よりどの講師の方も熱い想いがあり、それが言葉を通して伝わり、オンラインでも充実した研修が行えるということ、信念はどのような障害があっても届くのだということが分かりました。(八)
・今般のコロナの影響下でも 4 つの会場をつないで研修会を開催してくださったことに感謝いたします。今年度、指導主事に着任したばかりで、まだ右往左往している自分の力不足を痛感しています。7 月に開催されたオンラインでの研修会にも出席したかったと思いました。(八)

○<u>来年度以降の指導主事研修会に期待すること</u>

・２回目以降、内容もバージョンアップしなければいけない大変さや、新型コロナウイルス感染症の状況により、対応等も大変かとは思いますが、今年度の振り返りを踏まえて、少しずつでも改善して行ければよいと思います。また、研修のあり方（県との連携等）についても改善できればよいと思います。(弘)
・（学習の)「過程」が大切であることにシフトするにつれて、「過程」をどう評価していくかも教えていただければさらに深まると思いました。自分でも考えていますが、参考となる事例等があればさらに深められると思いました。(弘)
・校種別の対話的ワークショップ・分科会ができればよいと思いました。(弘)
・実際に Zoom オンライン研修を体験し、まさに新たな可能性を実感することができました。内容については、各指導主事にとって必要なもので大変参考になりました。もっと早く出会いたかったし、次年度も期待しています。(弘)
・コロナが収束したとしても、このようなオンライン形式が有効だと思います。学校教育課で春・秋に実施している指導主事協議会は、教科・領域の色合いが濃いので、このような研修会がその間である夏の平日に実施されることを希望します。そうすると県学教センターを活用できると思います。(弘)
・今年度同様、経験者のお話を聞きたいです。(青)
・中野先生のお話をもう少し詳しく聞きたいと思いました。また、学校とは別の視点（例えば経営者とか職人の方）から、社会で必要とされている力について語っていただくのもおもしろいと思います。(青)
・コマ数を少し減らしても、一つ一つの内容についてもう少し深く学びたい、聞きたい、話し合いたい部分がありました。やはり、具体的なお話（子供・学校）は心に残ります。(青)
・春先頃（年度初めの早い方）がより研修を生かせると感じました。時期についてですが、ただ１年目の方は、今の時期（１０月頃）がよいのかと思いました。(青)

・そのときそのときの学校・社会事情に合った情報を頂けると助かります。（八）
・実りある研修を実施していただき、ありがとうございました。講師の選定、日程、内容など、とても工夫されていたと思います。（八）
・来年度以降も是非実施していただきたいと思います。１コマ 40～60 分だと伝えきれない部分が出てくると思うので、例えば、指導主事経験者のコマは分科会形式にするとお一人の方のお話をじっくり聞けるだけの時間を確保できるかなとも思いました。（場所や機材等が確保できればの話になりますが）（八）
・継続開催することを期待します。対面式が行えれば・・・。「横の連携」がもっと図られやすくなると思います。運営者の皆様のご尽力にはただただ感謝です。（八）
・様々なチャレンジで、来年度も”青森県に来たことのない教授（木原先生）”のお話など、実施してほしいと思います。協力できるところは、私もやっていきたいと思います。（八）
・オンライン研修を運営する側の気苦労は察することができるので、それでもなお、実施してくださったことに感謝したい。指導主事の力量を高めるような内容の講義・演習の企画をお願いしたい。（八）
・アカデミックな内容と実践により得られる内容と、やはりどちらも必要だと感じましたので、今後もバランスよく内容を整えていければ充実した研修になるかと思います。（八）
・毎年、同じ研修にならないために、例えば、指導主事 1～2 年目向け研修、3～4 年目向け研修のように、経験年数ごとに分けると選択して受講できて良いのではないか。（八）
・オンラインで開催できることに今後の可能性を感じますが、やはり、回線の関係で十分な講義を聴くことができない部分もありましたので、対面の機会もあればさらに充実すると思います。本日は、貴重な機会になりました。（八）

**〇研修実施上の課題**

オンライン＋対面式での実施は、県内に複数の都市圏がある青森県の場合には、非常に有効であった。しかし、３か所にスタッフを置くのは負荷が高かったことも事実である。青森会場は５名のみの参加であったことなどを踏まえ、来年度以降は、２会場程度とするのが適切であると考えられる。また、特に音が聞こえにくい部分があった。この点に関しては、次年度以降、機材や接続方法を改善して行く必要がある。

内容面では、指導主事は、所属先によって業務内容がかなり異なる。このため、次年度の企画においては、どこに焦点を置くか、多様な指導主事の期待にどう応えるか、さらに精査していく必要がある。また、協議など参加者がアウトプットできる時間を確保することにより、満足度を上げていくようにしたい。

**②　指導主事オンライン懇談会**

新型コロナウイルス感染症防止のため、上記のように指導主事研修会の本開催は 11 月 28 日(土)としたが、当初予定していた 7 月 11 日(土)には、指導主事の研修ニーズに配慮して、オンライン懇談会を実施した。

**〇対象、人数、期間、会場、日程講師**

**・対象**

当初開催予定であった指導主事研修会参加予定指導主事のうち、希望者

**・人数**

8 名

**・会場**

オンライン上の会議室（Zoom）

**・日程**

日時：令和２年７月 11 日（土）10 時～11 時 30 分
10：00～10：30　中野博之（弘前大学教職大学院教授）
「校内研修における助言のために―新学習指導要領を踏まえて」
10：30～11：30　懇談会（新任の方のグループと経験のある方のグループで実施）

**○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）**

８月以降、新任指導主事が学校現場を助言者として訪問するようになるため、そのことを意識した講義を配置した。その上で、日頃感じていることや自身の課題について率直に話すことができるよう、指導主事経験のある複数の教職大学院教員との少人数グループによる懇談の場を配置した。グループ編成は、新任指導主事グループと、1 年以上の経験のある指導主事グループの２つに分けた。指導主事は、所属先によっても業務が異なるため、各グループに入る教職大学院教員は、参加者の所属先を考慮して適切な経歴を持つ者が当たるようにした。

**○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方**

| 研修項目 | 時間数 | 目的 | 内容、形態、使用教材、進め方等 |
|---|---|---|---|
| 校内研修における助言のために―新学習指導要領を踏まえて | 30 分 | 助言者として学校現場を訪問する時期を前に、新任指導主事が新学習指導要領を踏まえた実践の見取りができるようにする | **・内容**<br>指導主事として、校内研修等に参加する時期を前に、新学習指導要領を踏まえて、子どもの学びに注目した観察と助言の在り方について学ぶ。<br>**・実施形態**<br>オンラインでの講義<br>**・使用教材**<br>講師作成のスライド<br>**・進め方の留意事項**<br>疑問点は懇談会の中での双方向のやり取りの中で解決してもらうことを前提に、ポイントをシンプルにわかりやすく伝えるようにする。 |
| オンライン懇談会 | 1 時間 | 日頃感じている疑問や課題を率直に相談し、今後の業務への取組に生かす | **・内容**<br>新任指導主事と、経験のある指導主事のグループに分かれ、それぞれの視点から、指導主事の業務の中での疑問や抱えている課題の解決を図る。<br>**・実施形態**<br>オンラインでのグループ協議。<br>**・使用教材**<br>特になし。<br>**・進め方の留意事項**<br>指導主事は、市町村教育委員会（研修機能を持つ中核市・それ以外の市町村）、教育事務所、県教育庁、県総合教育センターなど、所属先によっても業務の内容が大きく異なる。教職大学院には、さまざまな指導主事経験を有した実務家教員がいるため、参加者の所属先等を考慮して教職大学院教員をグループに配置することで、実態を踏まえた有効な助言が可能になる。 |

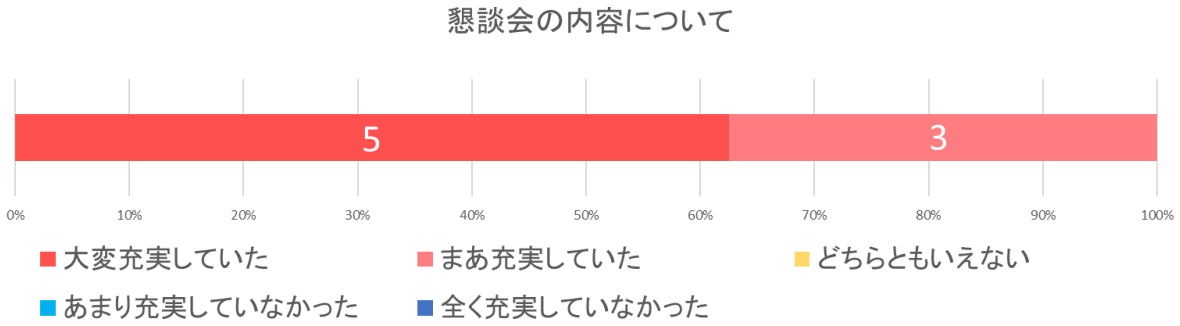
※実施要項を添付

**〇実施上の留意事項**

実施にあたっては、オンライン接続が初めての参加者がいることが想定されるため、接続がうまくいかないときの電話対応の担当を設ける等、丁寧な準備が必要である(実施要項参照)。

**〇研修の評価方法、評価結果**

オンラインで事後アンケートを実施した。回収率は 100%であった。




以下は、自由記述である。

- 指導主事の業務や立場について、理論的な面だけでなく実務的な部分についても丁寧にお答えいただき、参考になりました。最初の中野先生の講義も非常にわかりやすく、もっと詳しく知りたいと思いました。新型コロナの影響もあり、手探りで６、７月を過ごしてきた中でこのような懇談会に参加できてよかったと感じています。Zoom を初めて体験できたので、これもよい機会となりました。
- Zoom は初めての経験でしたので不安を感じていましたが、今は参加してよかったと思います。通常の研修会ですと質問しづらいこともありますが、今回は発言の機会があり質問できたり、アドバイスをいただいたりと参考になりました。参加人数が少なかったからかもしれませんが、非常によかったです。接続もスムーズで、聞きづらいこともありませんでしたが、始まるまではその点が不安でした。
- コロナ禍の中、この研修会を中止でもおかしくないところを延期にしてくださったり、さらにオンラインでの今回の講義・懇談をご厚意でしてくださったりしたことに心から感謝申し上げます。中野教授からの講義で助言の際の視点がはっきりしました。また Zoom の使用方法など懇切丁寧にしていただき、参加しやすい雰囲気を作ってくださり、本当にありがとうございました。

**〇研修実施上の課題**

今回は、指導主事研修会本体の延期に伴っての実施であったが、こうしたオンラインのみの企画も、必要に応じて比較的容易に設定実施することができると考えられる。どのような場面でどのように活かしていくのか、今後検討が必要である。

## ３　連携による研修についての考察

**（連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）**

**・連携を推進・維持するための要点と連携により得られる利点**

「弘前大学教職大学院教育研究協議会」の下部組織である「ミドルリーダー養成プログラム開発専門委員会」が、常設のワーキンググループとして実質的に機能していることが、弘前大学教職大学院と青森県教育委員会の連携を推進・維持する大きな原動力となっている。「ミドルリーダー養成プログラム開発専門委員会」は、県教育委員会指導主事と教職大学院教員によって構成されてお

り、年８回の委員会においては、キャリアステージに応じた現職教員に対する様々な研修プログラムについて常時意見交換が行われている。

同専門委員会では、指導主事研修会についても、企画・広報から実施後の省察までの過程を共有してきており、令和３年度に向けての協議もすでに始まっている。指導主事研修会は本年度初めての開催であり、新型コロナウイルス感染症防止のため延期しての実施となったにもかかわらず、上記のプロセスを経て県教育委員会の共催を得たことにより、31 名と多くの指導主事の参加を得ることができた。その成果については、中核市や各校種の校長会なども参加する「育成指標に対応したミドルリーダー世代の研修を考える協議会」や、「弘前大学教職大学院教育実践発表会」等でも報告しており、県全体のミドルリーダー養成の取組の一環として広く知られつつある。

**・今後の課題**

「ミドルリーダー養成プログラム開発専門委員会」では、すでに来年度について、指導主事研修会を実施する方向で、具体的な企画内容、講師選定等を検討している。オンライン＋対面式の良さをさらに引き出すよう、協議の時間を増やすなどの改善を行う予定である。

## ４　その他

［キーワード］　指導主事、研修、助言

［人数規模］

Ａ．１０名未満　　Ｂ．１１～２０名　　Ⓒ．２１～５０名　　Ｄ．５１名以上

補足事項（　指導主事研修会及び指導主事オンライン懇談会を合わせて 39 名　）

［研修日数(回数)］

Ⓐ．１日以内（１回）　　Ｂ．２～３日（２～３回）　　Ｃ．４～１０日（４～１０回）　　Ｄ．１１日以上（１１回以上）

補足事項（　　指導主事研修会の延期に伴い、当初実施予定であった日に指導主事オンライン懇談会を実施した。それぞれ 1 日の企画であり両方に参加した方もいたが、別個の企画となっていたため、ここでは A を選択した。）

【担当者連絡先】

**●実施者**

| | | |
|---|---|---|
| 実施機関名 | | 国立大学法人　弘前大学 |
| 所在地 | | 〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地 |
| 連絡担当者 | 所属・職名 | 教育学部総務グループ・係長 |
| | 氏名（ふりがな） | 佐藤　育世　　（　さとう　いくよ　　） |
| | 事務連絡等送付先 | 〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地　弘前大学教育学部 |
| | TEL/FAX | TEL　0172-39-3314　FAX 0172-32-1478 |
| | E-mail | jm3314@hirosaki-u.ac.jp |

●連携機関

| | | |
|---|---|---|
| 連携機関名 | | 青森県教育委員会 |
| 所在地 | | 〒030-8540 青森県青森市新町２－３－１ |
| 連絡担当者 | 所属・職名 | 青森県教育庁学校教育課・総括副参事 |
| | 氏名（ふりがな） | 佐々木　勝規　　（　　ささき　　かつのり　　） |
| | 事務連絡等送付先 | 〒030-8540 青森県青森市新町２－３－１ |
| | TEL/FAX | TEL　017-734-9895　　FAX　017-734-8270 |
| | E-mail | katsunori_sasaki2@pref.aomori |